

NIE は新聞記事の活用を通して主体的で対話的な学習活動を活性化し、教科内容を深めたりあるいは教科の枠を超えた総合的な学びを展開したりしてきた。いわゆる新学習指導要領でも「探究」が大きなキーワードであり、まさに NIE が正面から取り組んできたといえる。

それに関わらず、なかなか新聞活用が学校現場で広範な浸透を見ない現状も数多く指摘されている。高度情報化社会における情報の質的量的な変容に伴う新聞報道の存在意義に関わる要因も枚挙の暇がないほど指摘されている。その一方で、知識理解ベースの指導観（NIE が教科書の内容とずれていく学びを育むことへの違和感も）やその場の思いつきの判断を“出力”として容認する指導観から脱却できない等々やその他多岐にわたる様々な要因が指摘できよう。

本シンポジウムは、上記の要因全てを網羅しえないが、今日における情報と情報の受け止め方に焦点づけて、現実の世界・社会・他者に開かれていく学び（探究）を育成するために、指導目的・目標として何を重視するのか、いかなる力を育むのか等々についていくつかの論点を提供できたら、と設定した。児童生徒が表面的に主体的・対話的な学習から離陸し、深い学びを育んでいく「探究」の授業・指導づくりに必須な土台づくりであり、また“だからこそ NIE だ”とする研究や実践における方向性にとって大きな主軸の一つ足りえると考えたのである。

ただ、シンポジストには、“だからこそ NIE だ”という結論に直線的に向かうのではなく、今日における情報と情報の受け止め方を踏まえればという立場から、自身が取り組まれている研究や実践をもとにいかなる力の育成が求められているのかについて主に発表していただく。

NIE ならではの探究活動をさらに充実させる研究や実践の方向性を再確認したり、再考できるシンポジウムとなればと考える。

【シンポジスト】

赤池 幹（神奈川 NIE 推進協議会長、元新聞記者）

坂本 旬（法政大学教授）

尾高 泉（日本新聞協会博物館事業部長、ニュースパーク館長）

【司会】 片岡浩二（横浜国立大学）